

和やかで相談しやすい上司や先輩が多く、 風通しが良い開放的な職場です。



若手職員4名に、総務省を目指したきっかけや職場の雰囲気、将来取り組んでみたい仕事などについて語っていただきました。

真田 龍 Sanada Ryu

行政評価局評価監視官付〔内閣、総務等担当〕
平成31年4月採用（一般職事務系）

岡本 奈々 Okamoto Nana

統計局統計調査部国勢統計課労働力人口統計室審査発表第一係
平成31年4月採用（一般職事務系）

金井 綾花 Kanai Ayaka

自治税務局企画課総務室
令和2年度4月採用（一般職事務系）

伊地知 大輝 Ijichi Daiki

情報流通行政局放送技術課
令和元年10月採用（一般職技術系）

簡単に自己紹介をお願いします。

真田：行政評価局の真田です。出身は福島で、大学は茨城、現在は東京と、東日本から出たことがありませんが、行政評価局では全国に出向する機会があるので、どこに行けるか楽しみにしています。本日はよろしくをお願いします。

金井：自治税務局の金井です。私は神奈川県出身ですが、過去に北海道や石川県に住んでいたことがあります。次は暖かい地域に住んでみたいですね。

岡本：統計局の岡本です。趣味の話になりますが、元タインドア派で、最近特に家で過ごすことが多いので部屋を充実させることに凝っています。通販サイトで家具や小物を物色するのが毎日の楽しみです。

伊地知：情報流通行政局の伊地知です。千葉県出身で、現在は東京に住んでいます。趣味はカラオケと筋トレですが、今はお通うのが難しいため自宅で歌ったり筋トレしたりしています（笑）。本日はどうぞよろしくをお願いします。

現在は、どんなお仕事に携わっていますか？

真田：行政評価局というところで、各行政機関の業務状況を評価する仕事に携わっています。最近では、国の資格更新時の講習のオンライン化に関する調査や、地域の飲食料品店の存続に関する調査などを行いました。

岡本：私も調査関係です。総務省が毎月実施している「労働力調査」の公表に関する業務を担当していて、調査結果の分析や、ホームページに掲載するための資料の作成、調査結果についての照会対応などを行っています。

真田：労働力調査はよくニュースでも耳にしますね。

伊地知：私は「地デジ」をはじめとする放送技術の国際対応の日本政府の窓口として、日本の放送技術の海外展開や国際標準化への対応等に係る業務に携わっています。最近では、ITU（国際電気通信連合）がリモート開催した国際会議に出席し、

我が国の意見を主張しました。

金井：国際会議で発言するのはなかなか凄いですね。私は自治税務局の企画課にある総務室というところで、主に、国会などの総務業務や人事・予算業務を行っています。皆さんの携わっている業務を改めて聞くと、本当に幅広いですね。

国家公務員を目指した理由はなんですか？

また、様々な省庁の中から総務省を選んだ決め手は？

伊地知：私自身は学生時代に情報通信分野の技術を幅広く学んでいましたが、プログラマ等として情報通信分野の開発に従事するよりも、ICTに関する制度整備をはじめとする行政に携わることで、情報通信分野の発展に深く貢献したいと思い、国家公務員を目指しました。総務省を選んだ理由は、説明会等の機会を通じて学生時代に学んだ情報通信分野の知識を活用できる可能性が最も大きいと認識するとともに、テレワークを推進する官庁として多様な働き方が許容されることで高いワークライフバランスを実現できるのではないかと感じたからです。また、自治体の抱える課題をICTで解決する取り組みも盛んなので、総務省のそういった面に魅力を感じる方も多く聞きます。

金井：最近よく耳にするDX（デジタル・トランスフォーメーション）の観点でも、総務省は、自治体DXを推進する政策にも力を入れていますね。仕事を通じて全国の自治体と係わる機会は非常に多いのではないかと思います。私は、引越していろいろな地域にお世話になってきたので、そうした地域すべてに恩返しをしたいという思いがあり、国家公務員を志望していました。その上で、在籍していた大学で行われた説明会に参加した事が、総務省を選んだ決め手になりました。漠然としていたやりたいことが明確になったのと、お話しした先輩方と一緒に働きたいと感じましたね。

岡本：私は、国の基盤を支えるという仕事のスケールの大きさに魅力を感じたことが、国家公務員を目指した理由です。影響力も責任も大きく、常にやりがいを感じながら働けそうだと思います。数ある省庁の中から、総務省を選んだ理由は、これまでに自分が利用してきた統計を提供する立場に立てるという業務への関心に加え、官庁訪問で出会った先輩方も業務に誠実で人当たりがいい方が多く、雰囲気の良かったことですね。

真田：私は、大学の専攻で地域活性化に関する研究などを行う中で、県や国の施策に触れる機会が多く、そこに実際に自分も

関わりたと思ったのが、国家公務員を目指したきっかけでした。他省庁の説明会にも参加しましたが、幅広い業務に携われる点や、実際に働いている職員の方の雰囲気なども踏まえ、総務省に決めました。総務省



岡本 奈々
統計局統計調査部国勢統計課労働力人口統計室審査発表第一係

に限らず、説明会では実際に職員の雰囲気を感じられる良い機会なので、ぜひ、一度足を運んで頂けたらと思いますね。

伊地知：ちなみに、統計や情報通信関係の部局においては、大学時代に専門的な知識を学んだ職員がほとんどなのは、という印象をお持ちの方も多いと思いますが、事務系の職員や、技術系でも専攻分野が異なる方もたくさん働いています。少しでも興味がある方は、事務系・技術系を問わず説明会に参加してみたいですね。

国家公務員試験の受験で大変だったことは？

真田：予備校に通わずに勉強していて、周りに知り合いもいなかったもので、情報収集に苦労しました。説明会などに可能な限り参加して情報を集めていたのですが、結果的に余計な情報に惑わされなかったのは良かったと思います。

金井：私は筆記対策ばかりやっていた面接対策が短期集中の詰め込みになってしまったのが大変でした。大学や地域の就職支援室に行って、とにかくいろんな方を相手に何度も練習しました。今となっては良い思い出ですね。

伊地知：私も基礎能力試験において、社会分野の知識がなかったため、歴史や時事問題など同じ参考書を何度も使用して暗記し、基礎から勉強していくことが大変でしたね。一方、専門試験は自身の専攻に合わせて試験区分を選べたため勉強は比較的簡単でした。

岡本：科目によって得手不得手がありますが、筆記対策はやっぱ苦労しますよね。私も民間企業と併願して就職活動を行っていたため、公務員試験の勉強と企業の選考との両立が大変でした。民間が公務員かで迷っている人ほど、選択肢を残すために早めに勉強を始めておくと良いと思います。

伊地知：官庁訪問もなかなか大変でしたね。

真田：でしたね。官庁訪問についていえば、面接では、自分が相手に伝えたいことを伝えることに気をとられすぎず、相手からみてそれがどう映るか、どう伝えたら相手に伝わるか、ということは常に意識した方がいいと思いますね。

岡本：私は覚えてきた文章を答えるより、相手とのコミュニケーションを意識して官庁訪問に臨みました。相手も受験者が緊張することはわかっていますし、自分の思いを伝えようという気持ちがあれば多少言葉が拙くなくても伝わるはずです。

金井：コロナの状況によっては制限があるかもしれませんが、当日の過ごし方では、周りの人と会話することをお勧めしたいですね。情報交換にもなりますし、なにより長時間一人で緊張しているのはつらいので、お互いに良い気分転換になります。

伊地知：そのとおりですね。官庁訪問は一日のうちで数度にわたって面接が連続して実施されるため、前の面接で失敗したことを引きずらずに切り替えて次の面接に臨むことも大事だと思



真田 龍
行政評価局評価監視官付〔内閣、総務等担当〕

います。また、自身が面接カードに記載した内容について、その背景・経緯・理由等の詳細を円滑に説明できるよう準備しておくことも、自信を持って臨むためには良いと思いますね。

金井：官庁訪問に臨まれる方は、緊張する場面もあるかと思いますが、当日はリラックスして臨んでほしいですね。

入省前後でギャップはありましたか？

真田：入省する前は、“お堅い人が多い”とか“上司の言うことは絶対だ”みたいなイメージもありました。

金井：やっぱりそういったイメージがありますよね。

真田：ですね。ただ実際は、フランクな人も多く、もちろん上司に意見することもできるので、いい意味でギャップがありました。

金井：私も、想像していたよりも風通しが良く驚きました。一年目だろうと関係なく意見を聞いていただけるので、些細なことでもやりがいを感じられます。

伊地知：私は、働き方の面でギャップを感じましたね。霞が関に勤務している国家公務員は、国会開会中は常に、深夜にタクシーで帰宅し早朝から働いているイメージがありましたが、実際には、それほどでもなく、働き方改革が浸透しつつあることにギャップを感じました。

岡本：事前に想像していたより浸透していますよね。制度としてテレワークがあることは承知していましたが、実際にこんなにテレワークができるんだ、と驚きました。特に新型コロナウイルスの流行以降はさらに在宅で働きやすい環境の整備が進んでいるように感じますね。

周りの職員や職場の雰囲気はhowですか？

金井：和やかで相談しやすい方が多いです。困ったときに頼れる上司や先輩がそばにいてくださるため、職場は仕事がしやすい開放的な雰囲気です。

岡本：私の周りも穏やかで優しい人が多いと思います。業務でわからないことがあっても周りの方に質問すれば快く教えてください。特に入省後まもなくの頃は、質問がしやすい環境はとてもありがたかったです。

真田：私の部署は、忙しいタイミングやテレワークで人が少なかったりすると黙々と仕事する場面もありますが、基本的に議論したり雑談したりで賑やかに働いています。

伊地知：私は令和元年10月から半年早く勤務し始めたため同期がおらず不安でしたが、周囲の職員の方々は優しく落ち着いている方がとても多くすぐ馴染むことができました。職場も全体的に穏やかで、

金井 綾花
自治税務局企画課総務室

何かに急かされて仕事をしている雰囲気がなく、業務で分からないことを上司へ気軽に尋ねることができる非常に働きやすい環境です。

真田：雰囲気は部署によって様々ですが、基本的に働きやすい雰囲気だと思いますので、受験される方は安心していただいて良いのではないのでしょうか。

将来に携わってみたい仕事はありますか？

真田：行政評価局は他省庁の実務を外から見られる機会が多いですが、実務を体験できる機会は少ないので、他省庁に出向して実際の業務に携わってみたいと思っています。

岡本：総務省は多くの統計調査を行っているので、さまざまな調査を担当してみたいですね。携わる統計が違えば違った角度で社会を見ることになりそうですし、多くの調査を経験することで視野が広がると思います。

金井：私は、地方税の電子化をやってみたいです。今年にはコロナで確定申告期限が延長され、住民税の額が度々変更するのを見ていたので、電子化だけでなく何か地方の賦課・徴収業務の負担を減らすことに携われたらと思います。

伊地知：専門的な分野も魅力的ですね。総務省には通信や放送等に係る電波の割当を担当する部署もあります。最近サービスが開始された5G等の先端的な情報通信技術に強い関心があることから、自分が習得してきた知識が生かせそうなこれらの技術の電波の割当に関わる仕事に将来携わってみたいです。

受験を考えている方へ、メッセージを！

真田：総務省に興味を持って頂いた方はぜひ説明会に参加してみてください！若手職員とざっくばらんに話せるものもあり、パンフレットだけでは伝わりきれない雰囲気や人柄なども伝わるとと思います！

岡本：まずは説明会やHPなどで総務省の情報を集めてみてください。どのような分野で働きたいか考えるときにも、実際に受験して官庁訪問で志望動機を伝えるときにも、集めた情報が大きな後ろ盾になってくれると思います。

金井：どうしようかなと思ったら、一度説明会等に参加してみてください。職場や職員の雰囲気を知れば実際に働くイメージがしやすいと思います。勉強以外にもやる事が多くて大変だと思いますが、ぜひ頑張ってください。

伊地知：新型コロナウイルス感染症が蔓延している中、働くことに不安があるかもしれませんが、総務省はテレワーク推進官庁として働き方改革を力強く牽引しており、とても働きやすく魅力あふれる職場ですので、ぜひチャレンジしてください！



伊地知 大輝
情報流通行政局放送技術課

